



認定番号 29

樹種名	アコウ	科名	クワ科	方言名	ウスクガジュマル	学名	<i>Ficus superba var. japonica.</i>							
形状・寸法	樹高 6.6 m	胸高周囲	5.9 m	根本周囲	6.8 m	樹幹占有面積	254 m <sup>2</sup>							
	枝下高 1.7 m	枝張	東 9.8 m	西 7.5 m	南 9.5 m	北 9.2 m	最大樹冠幅 18.7 m							
通称	済井出のアコウ			樹齢	200年(推定)		所有者	1 国 2 県 ③ 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
所在地	名護市済井出18-1						状況	① 単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 ④ 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 (史跡)							気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 ③ 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹(村文化財 1997年3月指定) 6 名木 7 その他 8 なし						(最寄りのア メダステーダ)		平均気温(°C)	16.0	16.1	18.6	21.8	24.5
	周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 ⑤ 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ( )						風向	NW	S	SSW	SSW	S	S
土地傾斜		① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:						地点:名護	月	7月	8月	9月	10月	11月
	土壌	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )							2015年	平均気温(°C)	28.8	28.6	27.5	24.8
基岩・母材								潮風の影響	降水量(mm)	471.0	270.0	39.5	80.5	95.0
	平均風速								4.9	3.8	3	3.7	3.4	3.9
地形	1 山地 2 丘陵地 3 台地 ④ 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪窪 9 カスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他						日照条件	風向	ESE	S	SE	NNE	N	S
								年平均気温	23.1 °C		最高気温	33.9 °C		
土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる ② 壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない						周辺樹木の 影響	年降水量	1595 mm		最低気温	7.7 °C		
								周辺根元の 状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③ 固結している ④ 踏圧あり b 踏圧なし					
根元及び周囲の植生	草本 1 密生 ② 疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 ③ なし						周辺樹木との関係	① 影響なし 2 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						

管理状況	1 柵 ④ 有 b 無 (有の場合の高さ m、材質 柵内面積 ( m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 ④ 無 3 剪定 a 強 ④ 弱 c 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ④ 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 a 有 ④ 無 (有の場合 回数 種類 ) 6 解説板 ④ 有 b 無 7 避雷針 a 有 ④ 無 8 定期的な草刈・掃除 ④ 有 b 無 9 その他											
過去の治療歴と内容												
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 ④ 無 5 いわれの内容 6 不明											
視認性	1 遠方からも目立つ ④ 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )											
特記事項	1 動物生息 a 有 ④ 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 a 有 ④ 無 (有の場合植物の種類 ) 3 見学・参観者 a 有 ④ 無 (有の場合その数) 4 その他 観光スポット											

地上部の衰退度判定（認定番号29）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.55

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

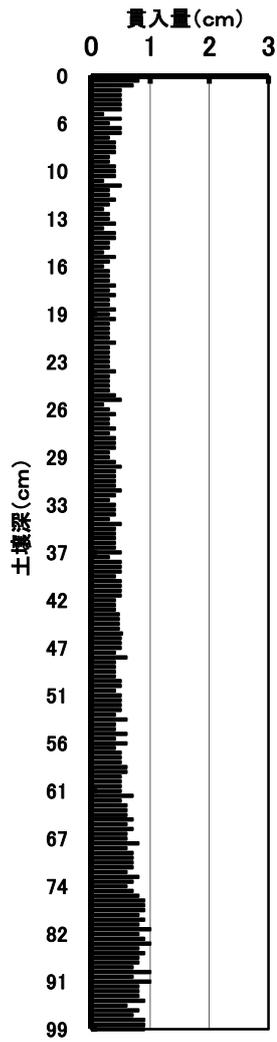
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○			
根返り		○			
幹折れ		○			
大枝折れ		○			
中・小枝落下		○			
幹の傾斜の増大		○			
その他					

土壤調査結果（認定番号 29）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR6/4	0-7	-	砂土	9.2	0.8
II	10YR5/4	7-14	-	砂土		
III	10YR5/4	14-34	-	砂土		
IV	10YR4/4	34-	-	砂土		

土壤貫入量結果



済井出のアコウ

部位	所見	対応
土壌	・土壌は沖積土で土層は深く 100cm 以上ある。砂質で礫を殆ど含まない。5～20cm まではやや締まっているが、表層に固結は見られない。	・無し。
	・pH、EC はそれぞれ 9.2、0.75(dS/m)。	・EC の値から養分の欠乏が推定されるため、堆肥等で施肥を行うことを検討する。
根	・鋼棒貫入の異常は認められない。	・無し。
	・露出根が多く傷が目立つが、踏圧は大きくはない。	・露出根を保護するために立入の制限は必要と考える。
	・古い根にイチジクカミキリのフラスが認められる。	・早期に駆除することを検討する。
幹	・幹は高さ 1.5m で分岐するが、亀裂、腐朽はなく、イチジクカミキリの被害も認められない。	・分岐部の開きが大きく、裂けやすいのでイチジクカミキリの被害、亀裂の増加を点検するため、定期的な観察が必要と考える。
	・幹の傾きが大きい。	・気根を誘導し、支柱根に仕立てることが望ましい。
	・高さ 3m の部位の古い幹にイチジクカミキリのフラスが排出されている。	・イチジクカミキリを駆除、または被害枝の切除を検討する。
	・幹の先端部が著しく衰弱しており、一部枯死している。 ・古い幹の樹皮は傷が多く黒く乾いており、活力は乏しい。	・枯死枝や腐朽により落枝の危険の考えられる枝の切除を検討する。
枝	・枝どうしの擦れによる損傷が目立つ。落枝の可能性はある。	・整枝剪定を検討する。
	・枝が細く、短い。枯死枝も見られる。	・枯死枝の切除を検討する。
	・樹皮の活力が乏しい。 ・切断された枝の基部にコウシュンシロアリの食害が見られる。	・無し。
葉	・局所的に小さい葉がある。その他特に異常は認められない。	・無し。
備考	・樹勢の衰退が認められる。堆肥等を施すとともに定期的な病害虫(特にイチジクカミキリ)の管理を行うことが望ましい。	

